

1970

E  
11  
14

023-02

[沖縄県公文書館]



\*R00060204B\*

\*研究機関に関する書類\*

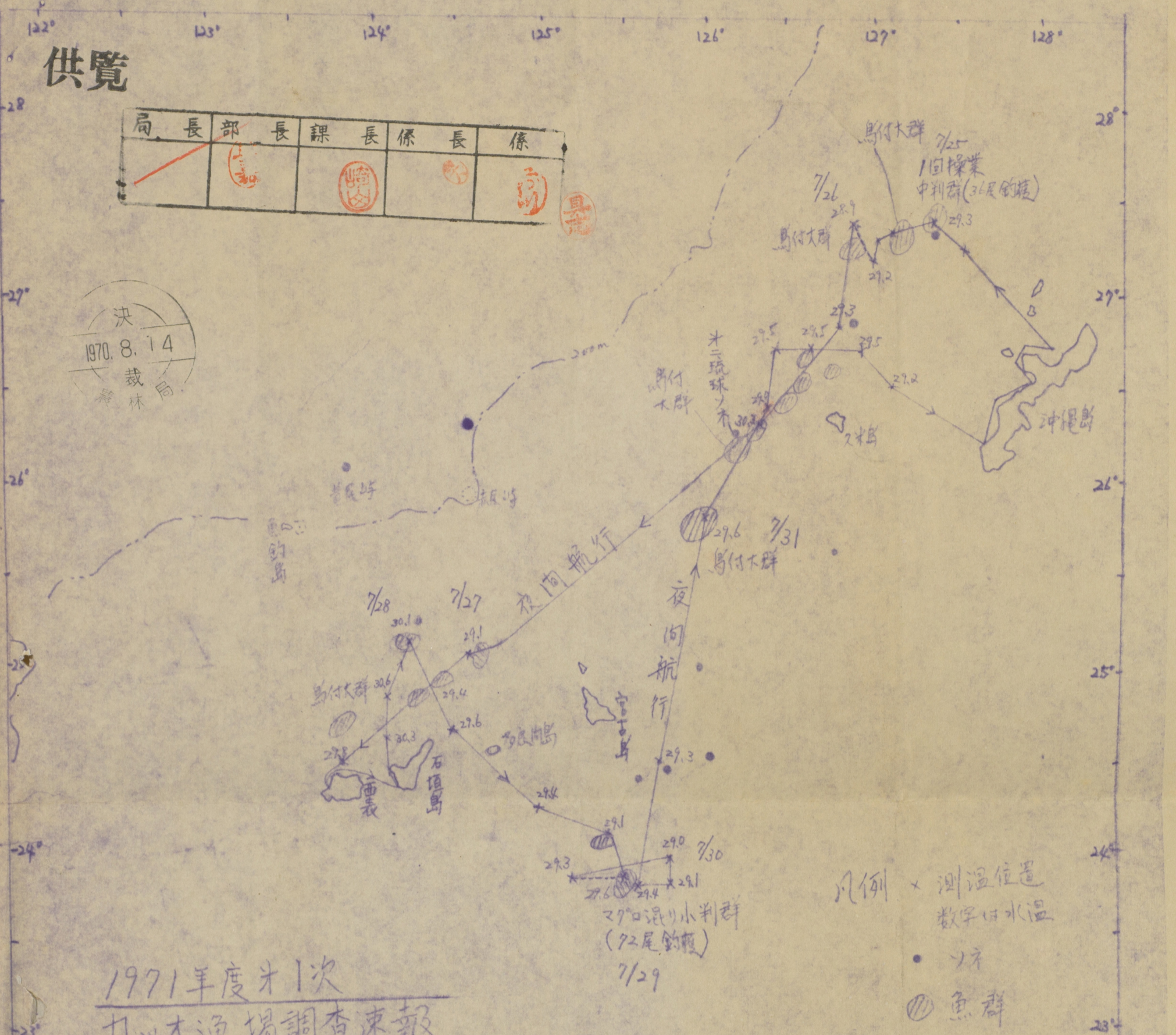
研究機関に関する書類

(漢政係)

# 供覧

局長	部長	課長	係長	係

決  
1970. 8. 14  
裁  
林  
局



## 1971年度才1次 カツオ漁場調査速報

琉球水産研究所  
那覇市高橋町

1970年7月23日 泊出港  
8月1日 泊帰港

当所調査船回南丸(159ト)で7月23日  
~8月1日まで琉球近海のカツオ漁場調  
査も実施した。今回は餌を採捕し釣獲試  
験を行ったが餌の採捕量が少なく漁獲は  
低調に終わった。又八重山石垣より旋網で  
採捕した餌(主としてメノマツ(口右干)を活力  
試験および釣獲試験用として300kg購入した  
が20時間以内に死亡率98%となり、ほとんどの餌  
のよい状態で調査する結果となった。

調査結果は航跡図に示すとうりである。  
伊平屋ソネからオニ琉球ソネ間は鳥群も多く、  
魚群もかなりみられ、また、石垣西表近海でも  
魚群は小さいが島にかなり接近し回遊しているのが  
みられ、増根付近に主漁場が形成されており、好天の続  
くがぎり同海域では好漁が期待されよう。  
宮古南南東海域では熱低の続発で荒天とな  
り鳥群も少なく魚群も散発的だった。  
調査海域の表面水温は29℃台を示し先航海  
(6月下旬)より0.5℃~1℃昇温している。石垣西表近  
海では30℃台を示している水域もあり、水温は平  
年並かやや高目となっている。

南丸航海速報

1970年6月24日～7月6日

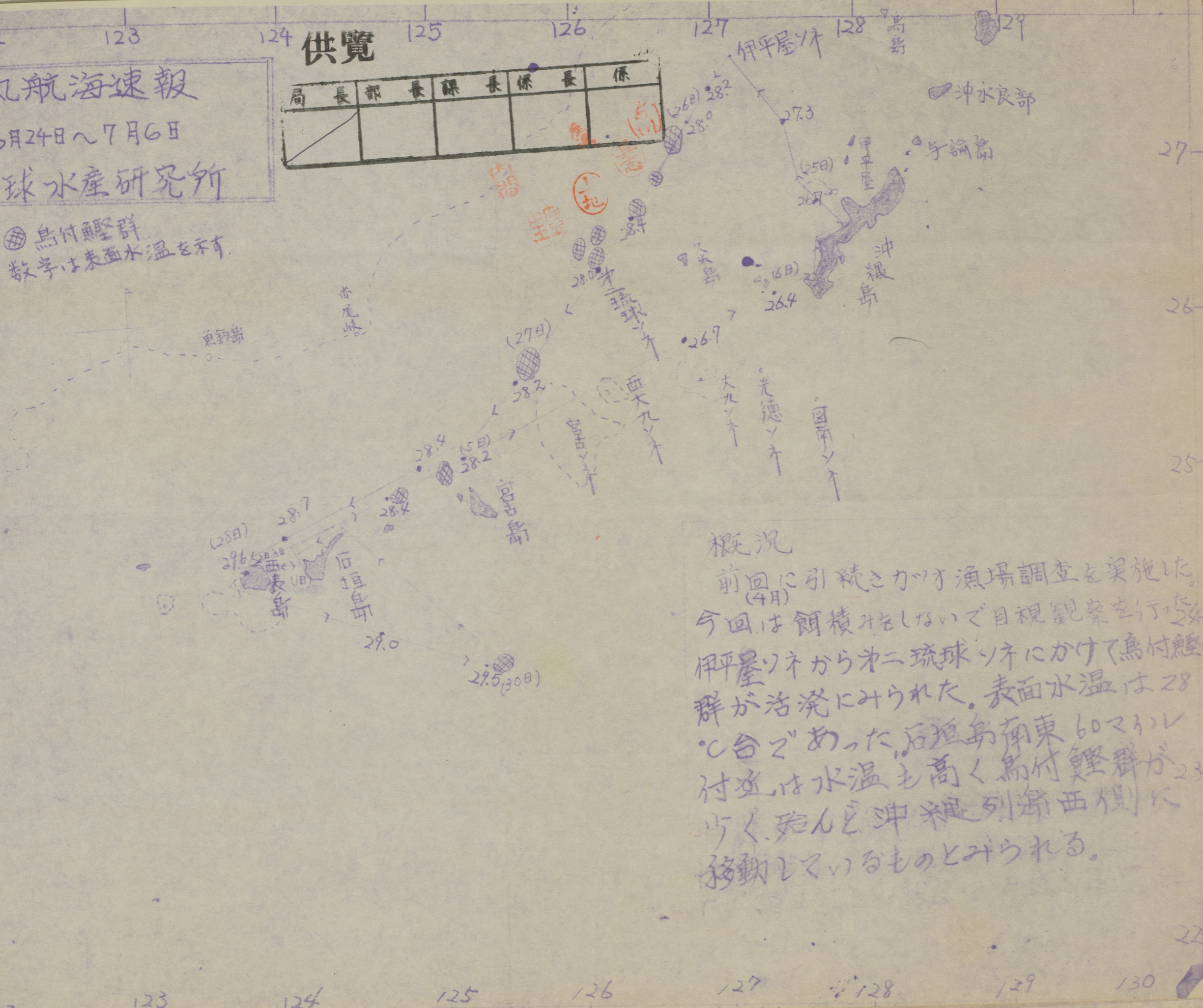
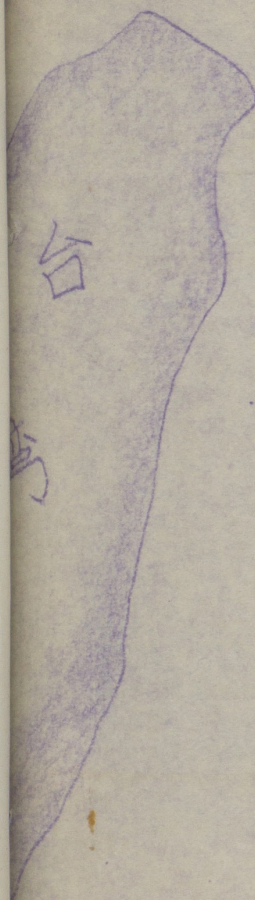
琉球水産研究所

供覧

局長	部長	課長	係長	係

14/19  
7/14

鳥付鯉群  
数字は表面水温を示す。



概況

前回に引き続きかつお漁場調査を実施した。  
(4月)  
今回は餌積みをしないで目視観察を行った。  
伊平屋ソネからオニ琉球ソネにかけて鳥付鯉群が活発にみられた。表面水温は28℃台であった。石垣島南東60マヅル付近は水温も高く鳥付鯉群が23℃以下、殆んど沖繩列島西側に移動しているものとみられる。